

コロナ禍でこそ考える 『表現の自由』と共存社会

志田陽子

武蔵野美術大学

本日の講演 きほんの視点

- 私たちが生きる社会は、他者との共存によって支えられています。
- 一人ひとりが自分らしく生きていくためには、
- 自由な表現に支えられ、さまざまな文化芸術に接することのできる社会、
- 他者との違いを当然のこととして受け入れ、お互いの事情を語りあえる社会が必要です。



フリー素材写真

本日の講演 きほんの視点

- 新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、外出や営業、集会が「自粛」。
- そして加速して広がるインターネット・コミュニケーション。
- この流れが、憲法で保障されている「表現の自由」にどのように関わってくるのか…
- 生存と文化への気づき、という観点から、考えます。



せっしょく
接触にご注意くださ



窓口
も受付) **0120-565653** [フリー
ダイヤル

コロナで気づいた表現の価値

- 2020年、新型コロナウイルス感染防止が最大の関心事に。
- 「表現・コミュニケーション」、「文化芸術・教育」の分野に影響が。
- これまでもあった問題の加速と、
- これまで意識されなかった要素がクローズアップされる場面と。

集会やデモ、音楽ライブや演劇、「夜の街」

- 4月7日 緊急事態宣言の発出時より、知識共有が進んだ。
- 飛沫感染を起こす「濃厚接触」を避ける必要。
⇒直接に会うことを避けて、リモートコミュニケーションが加速
- 孤独感、メンタルへの負荷
⇒表情やしぐさなど、「生身の」要素の大切さ



「表現の自由」の価値、再確認

- 日本も第二次世界大戦の末期には、
- 人間の感情表現を押さえ込んだ。
- 哀愁をおびた歌は放送禁止
- 兵士は死の恐怖を表現できない
- 隣組、戦死者の家族の葬儀まで…

⇒映画「ラストゲーム 最後の早慶戦」スライド



「表現の自由」の価値、再確認

- 憲法が保障する「表現の自由」は、
- 人間をそうした禁止や統制から解放。
- コロナは、
- メディア表現、ネット表現に乗らない、
- 日常生活の中の自然な感情表現の大切さを確認。
- とくにこれが出たのが大学生。
⇒ 学びとは何か、問い直し



コロナで加速した 誹謗中傷、差別表現

《表現の暴走》の加速。
雑談による《ガス抜き》の場の減少、
ネットやテレビへの依存。
⇒SNSをはけ口に。
⇒誹謗中傷や「自粛警察」に拍車。



名の刃～SNS 暴力考

SNS 中傷規制「政治に批判的な言論、封じる懸念」 憲法学

毎日新聞 2020年6月11日 15時00分 塩田彩

⇒総務省、議員が対応を検討

⇒「表現の自由」を不用意に制約しないよう綿密な検討を



に詳しい武蔵野美術大・志田陽
豊島区で2019年8月5日午
去撮影

恋愛リアリティー番組
プロレス選手の急死をき
謗（ひぼう）中傷対策を
ている。自民党はプロシ
長・三原じゅん子参院議
を含む検討を始めた。
い武蔵野美術大・志田陽
「政治の動きが速いのか
の規制が前のめりになっ
言論まで封じられる」
う注視しなけれ
ている

芸術やエンタテインメントの価値、再認識

- 生活の中で起きてくる不安感や精神的苦痛を、発散・中和
- 人間への想像力、気づき
- 社会問題や歴史への想像力、気づき
- ドイツの文化相、芸術文化を「人間の生命を支えるもの」



「発言することが、社会の意識を変える可能性が

これらが極度に封じられた。

⇒攻撃的な暴言が出やすくなる

⇒追い詰められた心理に

⇒規制よりケア型の支援を

想像力の低下により、ヘイト、社会的分断が起きやすい



政府や 自治体の 責任は

- 医療提供・感染防止だけでなく、
- 経済を支える責任
- 共存社会を支える責任

- とくに政府や自治体の説明責任・情報公開責任
- これが滞ると
 - ⇒社会は偽情報(デマ)の影響を受けやすく
 - ⇒感染者叩きや特定の業種を叩く動きに

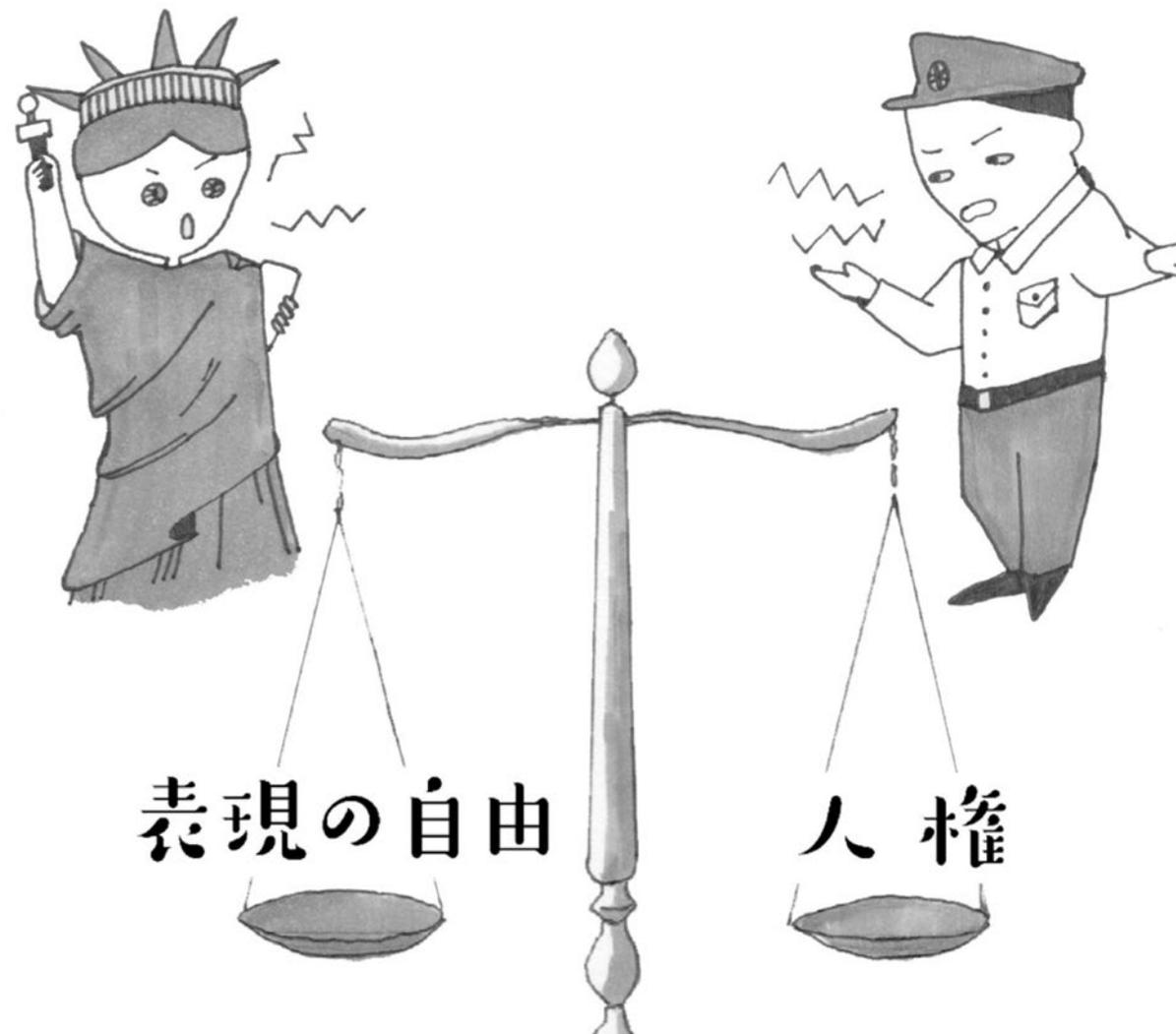
影響力のある

公人の発言

- 4月中旬には、市議が、「殺人鬼」発言
⇒《ヘイトの許可》となりかねない。
⇒社会的分断を煽る発言を自制しつつ、啓発に努める必要が。
- 長野県や長崎県などで、
- コロナに関連する差別発言や誹謗中傷発言を行わないよう呼びかけている。
- こうしたメッセージには、大きな意義が。

憲法21条「表現の自由」は、
13条「公共の福祉」によって
制約されることもある。

しかし、その制約は、
他者の人権のためなど、
よほどの場合に限られる。



よほどの場合とは…

- 人命と健康がかかっている
⇒「必要性」「公共性」あり。
- その事情がなくなったら、制約を解く。
⇒ 惰性での自粛
⇒ 社会の萎縮は **STOP!**
- 求められているのは行動の自制。表現そのものではない。
⇒ 表現者の側も、工夫しながら表現を続ける努力を。



《制約のあり方》と、《制約を解くべき時機》

- 生命・健康と「表現の自由」
- どちらも決定的に重要な権利。
- 一方を絶対化できず、緻密な思考を。
- 有効な方策が確立したら、
- コロナ完全終息に至らなくても、自由を回復

たとえば、ふぐ料理



予防策の模索は、
公(感染症予防責任)と表現者の双方で
情報共有と議論 ⇒知る権利

フグの毒、正確に知らない

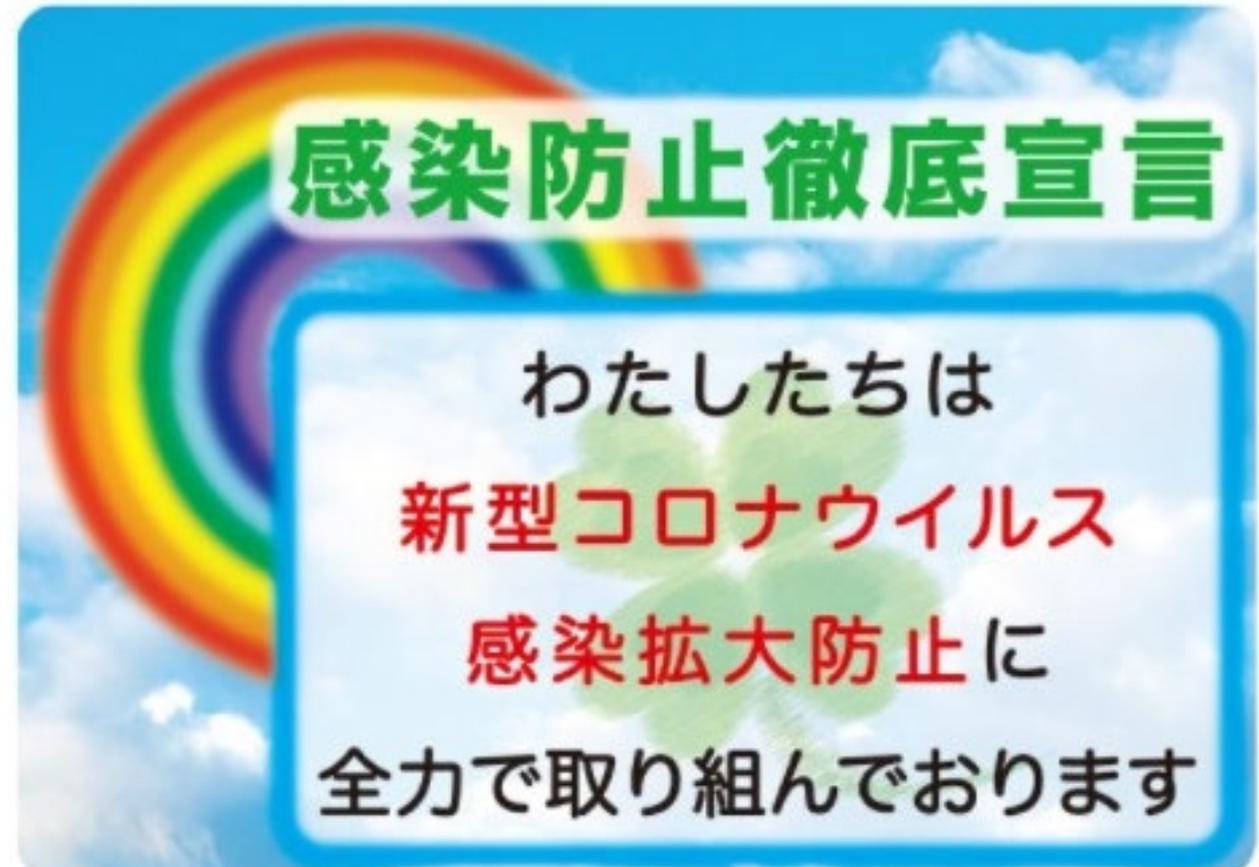
- 警戒・用心のレベルは
- 個人差、職業的立場の差がある。

押し付けないで。



なるべく自由制約の
度合いの少ない方法を

表現を制約しなくても
有効な防止策がとれるなら



- 東京都は8月から、飲食店を含む事業所に向けて「感染防止徹底宣言ステッカー」を配布。
- 経済活動や表現活動を警察を使って自粛させるよりは理性的。

演劇ニュース

当事者の自主的なルール作り。

実効性が認められるなら、尊重。

あらゆる事業者に共通。



ライフライン情報と文化の多様性

- 災害や感染症など、人が生きるために社会全体の配慮と支援が必要な状況では、社会的排除はそのまま「命の選別」に直結。
- 《生存からの排除》が起きない社会を構築する責任が。
- ⇒ 言語文化の多様性 + コミュニケーション手段の多様性 の確保が必要



•生活・生存に必要な情報については、分断が起きてはならない。

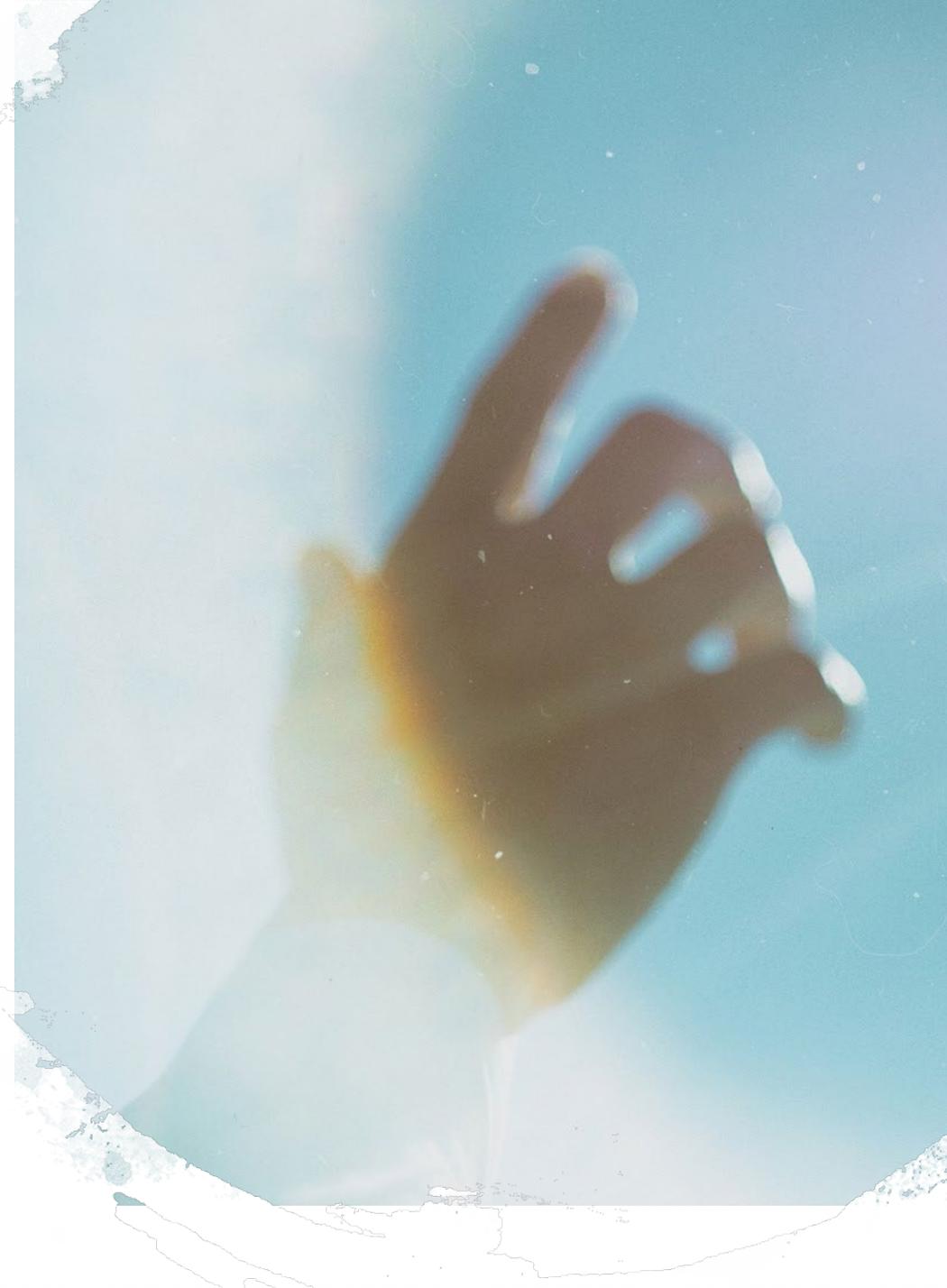
⇒すべての人を排除しない情報提供の形が維持される必要が 【平等】

• デジタル・デバイドによる分断

• ヘイト感情による分断

• 2019年10月の台風の事例

• ⇒生命に必要なインフラを、特定の人々に対して拒むことは、憲法13条・25条に反する。



- 肉眼では見えない危険、脅威
- 公共情報にアクセスできない人の切り捨ては、命の選別に直結。

- コロナ感染拡大防止のための移動制限
⇒文化的な多様性の意識後退? ⇒回復が必要

- 文化的多様性の理解と教育を必要とする人々の存在
⇒朝鮮学校に通う学童。

- 社会的弱者に対するスケープゴート化
⇒ヘイト感情が高まる可能性 ⇒防がなくては

さいごに

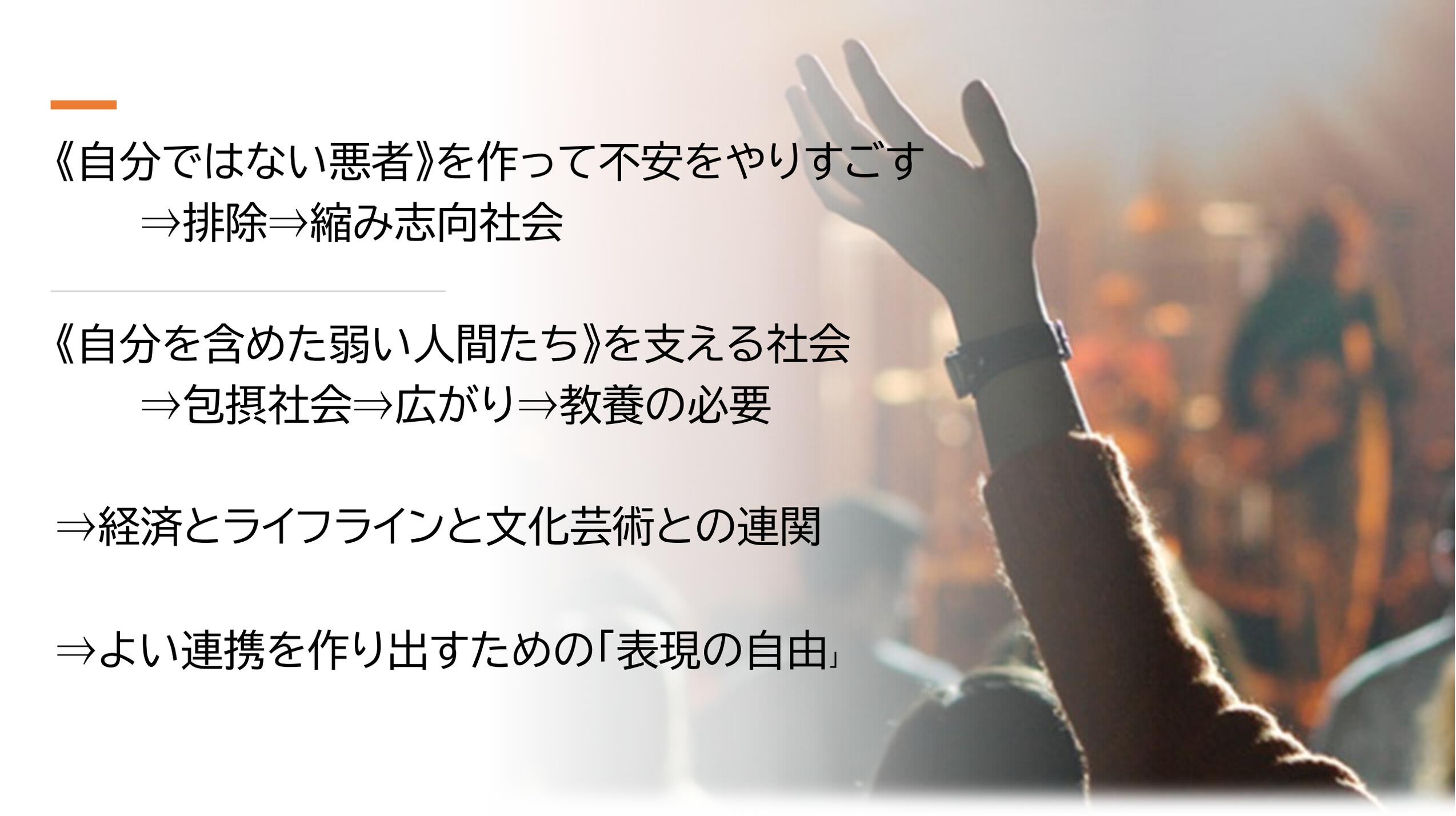
- コロナ後も、別の脅威が起きるかも？
- 法哲学でいう「無知のベール」

⇒ 自分がもっとも不利な立場に置かれることへの想像力

⇒ 誰もが不安をシェア

⇒ 誰も排除しないシステムを





《自分ではない悪者》を作って不安をやりすごす
⇒排除⇒縮み志向社会

《自分を含めた弱い人間たち》を支える社会
⇒包摂社会⇒広がり⇒教養の必要

⇒経済とライフラインと文化芸術との連関

⇒よい連携を作り出すための「表現の自由」

付録です。

- <https://drive.google.com/file/d/12wMuW1kgcXFd5SyrmuaoUqTL94354IVK/view?usp=sharing>

「蛍」 (映画「ラストゲーム最後の早慶戦」主題歌)

表現の自由の大切さについては、
お時間があれば、こんな動画も
見てやってください。

蛍 hotaru

「ラストゲーム・最後の

付録です。

花は、突然には咲きま

https://drive.google.com/file/d/1pi4sV6RWEDeDBO4PLG150_IEsVSH-9Jm/view?usp=sharing

「夢の話」

こちらはオリジナル曲。YouTube公開準備中です。

社会ニュースや映画をいろいろ紹介しています。



—
ありがとうございました

**「立憲主
なんだ**

YouTubeチャンネル

志田陽子「歌でつなぐ憲法の話」

https://www.youtube.com/channel/UCjNENX-Vjh66q_bxKwSJyMQ

憲法とは、国家を、暴走しないように
国家がこの「枠」を守って働くことが